

学校施設改築のコンセプト（案）

豊山中学校の改築コンセプトは、豊山町教育大綱の「基本理念」「基本理念を支える柱」に基づくものとします。

1 豊山町教育大綱（抜粋）

策定 平成 27 年 8 月

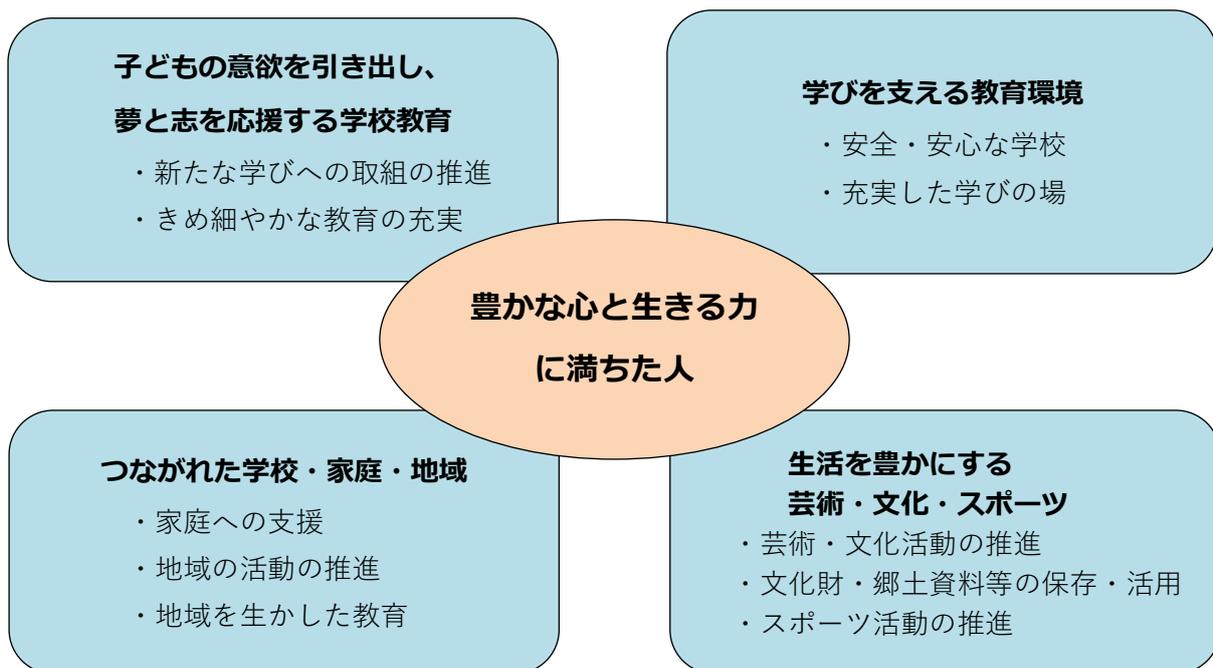
変更 令和 2 年 4 月

【基本理念】

豊かな心と生きる力に満ちた人を育む

子どもからお年寄りまで、ライフステージや能力・意欲に応じた学習活動や社会活動に取り組めるようにするとともに、学校と家庭、地域の一層の連携のもとで学校教育の充実を図ります。

【基本理念を支える柱】



（1）子どもの意欲を引き出し、夢と志を応援する学校教育

子どもが自発的に課題に取り組み、活発に意見を交わしながら学ぶことを通して、子どもの成長を支えていきます。

○新たな学びへの取組の推進（ICT、外国語教育、道徳、国際交流 など）

新しい学習指導要領に対応した、未来の創り手となる資質・能力を育てていきます。

○きめ細やかな教育の充実（少人数指導、特別支援教育、教育相談体制 など）

一人ひとりの個性や成長に応じた教育を推進し、子どもの支援体制の充実を図ります。

(2) つながれた学校・家庭・地域

学校と家庭、地域が一体となって子育てや家庭教育の支援を行っていきます。

○家庭への支援（家族ふれあい事業、放課後子ども教室 など）

子育て支援を充実させ、安心して子どもを育てられる環境を整えます。

○地域の活動の推進（青少年リーダー育成、スポーツ少年団 など）

スポーツやボランティア活動を通して、地域で子どもを見守り、健全な育成を支援していきます。

○地域を生かした教育（町の伝統・文化・産業・施設 など）

地域の財産や人材を学校に取り入れ、子どもの学びを広げます。

(3) 学びを支える教育環境

安心して学びに向かうことのできる環境を整備し、「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べる機会を提供します。

○安全・安心な学校（学校給食、学校施設整備 など）

児童生徒がのびのびと学習し、力が発揮できる環境を整備します。

○充実した学びの場（生涯学習プログラム、社会施設整備 など）

学習講座・教室の充実とだれにも優しい社会教育施設の整備・充実を図ります。

(4) 生活を豊かにする芸術・文化・スポーツ

芸術・文化活動やライフスタイルに応じたスポーツに親しめる環境づくりを推進します。

○芸術・文化活動の推進（文化振興事業、吹奏楽団 など）

文化振興事業の充実や芸術文化活動の発表の機会や拡充を図ります。

○文化財・郷土資料等の保存・活用（文化財の収集・保存・活用・展示 など）

町の歴史や伝統を伝え、次世代を担う指導者を育てます。

○スポーツ活動の推進（スポーツ教室、講習会 など）

全ての人が、気軽に参加できるスポーツの機会を充実させます。

2 豊山中学校の目指すべき姿

豊山町では学校施設の目指すべき姿の観点を次のとおり5項目に整理している。

5項目を更に課題ごとに分け、検討した結果について、改築計画上の標準事項は「基本項目」として区分し、基本構想や設計段階で検討を加える内容は「更なる検討項目」として記載した。

学校施設の目指すべき姿

1. 教育環境の質的向上

- ・多様な学習形態への対応
- ・特色ある教育環境
- ・生徒数に対応した空間の確保
- ・働きやすい執務環境

2. 快適な学習生活空間・環境への配慮

- ・快適な学習生活空間
- ・環境への配慮
- ・だれもが使いやすい学校

3. 地域コミュニティの拠点形成

- ・中学校と地域の連携・協働
- ・地域開放、地域施設との複合

4. 安全・安心な施設環境の確保

- ・災害に対応した学校
- ・日常の安全性確保

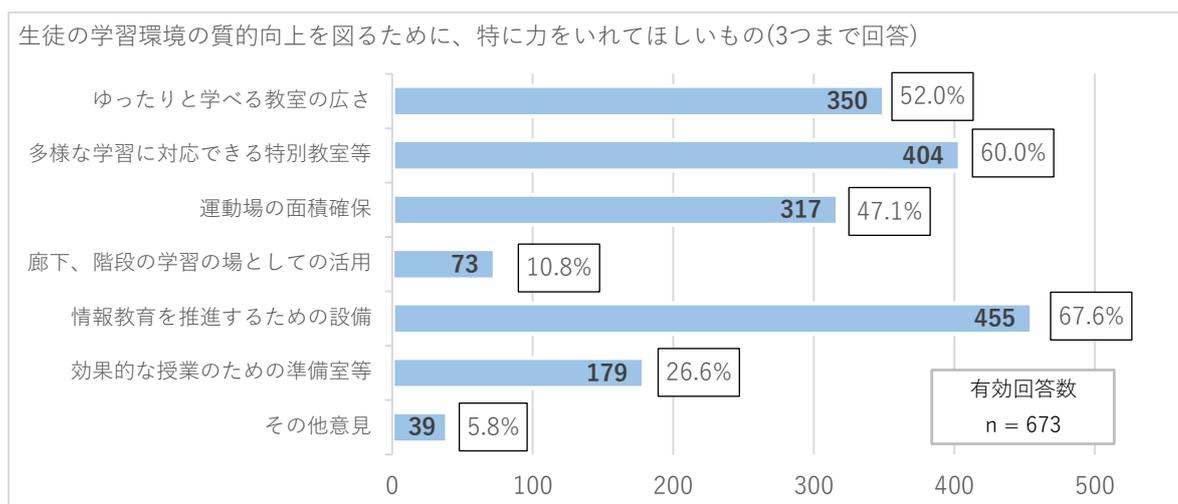
5. 財政負担を軽減する効率的な施設・運営

- ・計画的な整備、敷地利用の効率化
- ・維持管理に配慮した施設計画

(1) 教育環境の質的向上

教育環境の質的向上は、生徒の学力向上、豊かな人間性構築に不可欠である。また、教職員の執務環境を改善することにより、効率的で効果的な教育の実現を図ることができる。

町民アンケートの結果では、情報教育を推進するための設備、多様な学習に対応できる特別教室、ゆったりと学べる教室の広さが多く望まれており、新たな学習形態に対応できる学校施設機能が求められている。



○多様な学習形態への対応

- ・新しい時代の学びの姿に対応するためには、教室間の間仕切りの仕様の検討や、様々な用途に利用できる多目的室の設置など、フレキシブルに利用できる学校施設が求められる。また、GIGA スクール構想に基づき整備したタブレットを、生徒の学習に有効利用できるよう各教室へのモニター設置のほか、大人数がアクセスしても安定した接続が保てる通信環境の整備や将来の通信技術の進歩にフレキシブルに対応できる計画が必要である。
- ・教室は多様な学習形態に対応する机、ロッカーなどの配置が可能な面積、形状等となるように計画することが求められる。
- ・学校施設に設置される各運動施設についても、様々な利用方法に対応できる機能が求められる。グラウンドは現状以上の面積を基本とし、体育館、武道場、プールについては財政負担や地域連携と合わせて検討する必要がある。



図 多様な学習形態に対応できる教室のイメージ

出典：文部科学省「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」最終報告 令和4年3月

○特色ある教育環境

- ・豊山町内にある生涯学習施設(社会教育センターなど)や他の公共施設等との連携が望まれる。また、町内唯一の中学校として、地域との連携も求められる。
- ・生徒が3年間の中学生活で多くの時間を過ごすことから、親しみやすく記憶に残る正門の整備など、町内唯一の中学校として町のシンボルにもなる学校施設が求められる。

○生徒数に対応した空間の確保

- ・豊山町学校施設改築・長寿命化計画によると豊山中学校の生徒数は微増傾向にあり、2040年の525人をピークにその後は微減していくと推測される。新たな豊山中学校では、ピーク時の生徒数に対しても十分に対応できる施設を計画する必要がある。そのため、普通教室に加え、フレキシブルに利用できる余裕教室の確保や、ゆとりのある空間を計画する必要がある。また、普通教室及び机のサイズについては多様な学習形態を考慮した広さの計画が望まれる。
- ・障がいを持つ生徒に対しても、様々な障がいに対応した環境整備が求められる。また、普通教室と特別支援教室の配置についても、連携に留意した計画が求められる。

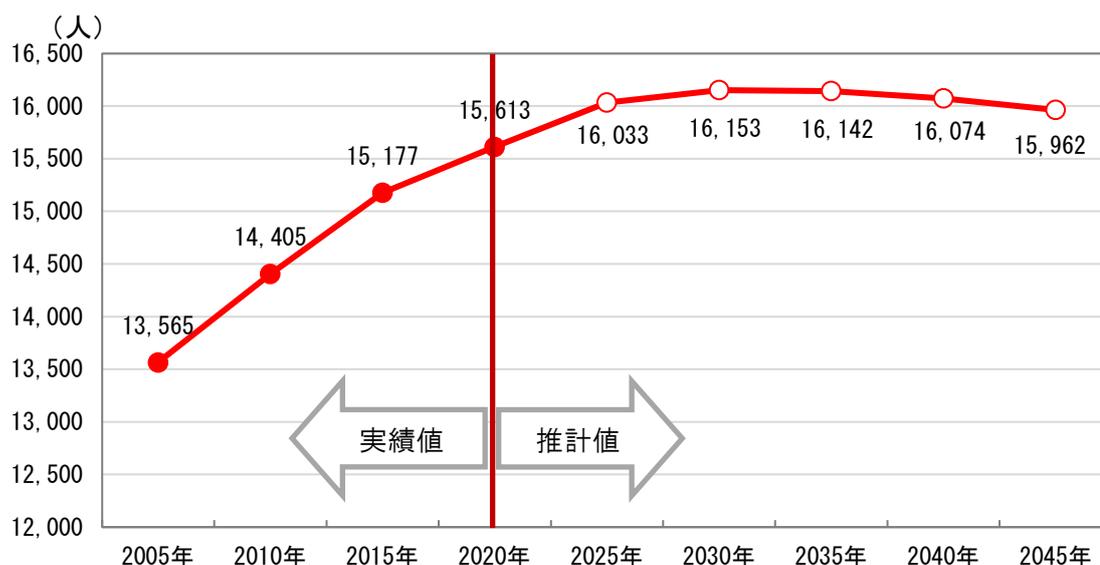


図 本町の総人口の推移

出典：「豊山町公共施設等総合管理計画」令和4年3月

本町の人口は、2020年には15,000人を超えている。将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2030年までは増加傾向が続き、以降は緩やかに減少しながら2045年には16,000人を下回る。

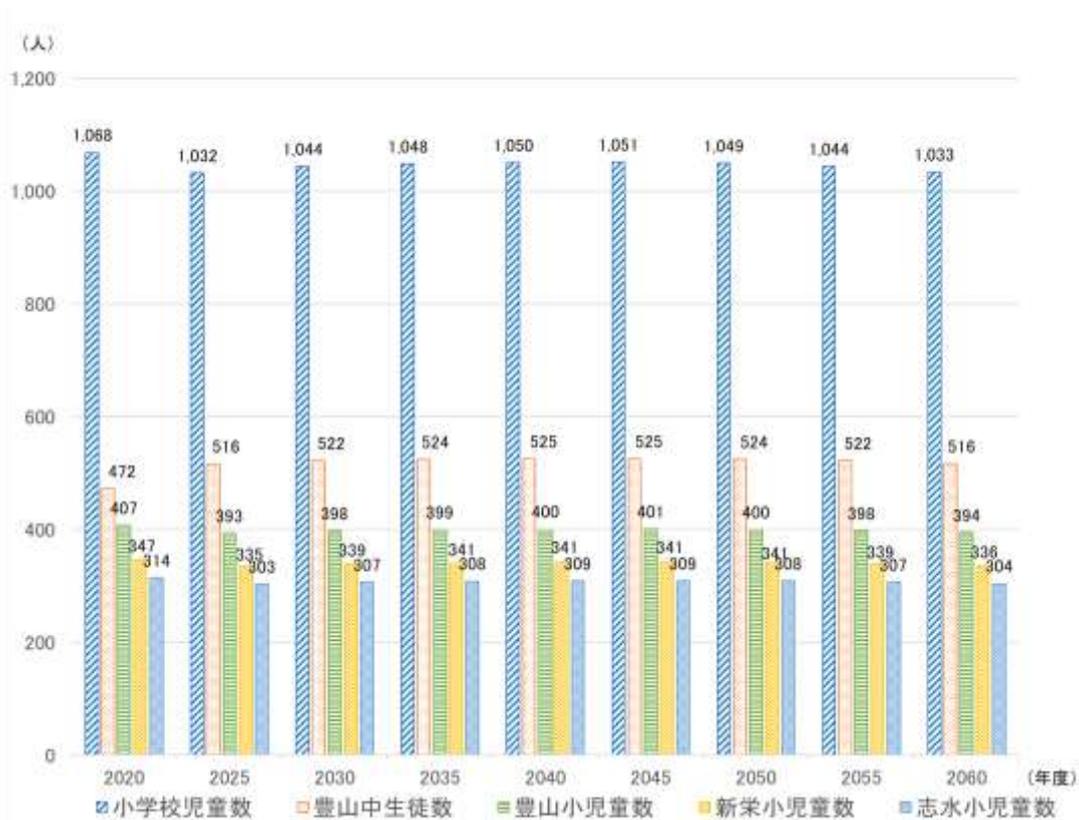


図 本町の独自推計ベースの児童・生徒数の推計

出典：2020年度は文部科学省「学校基本調査」、2025年度以降は豊山町教育委員会の推計資料

～2025年度以降の推計方法～

- ・小学校児童数（総数）と中学校生徒数（豊山中）は豊山町学校施設改築・長寿命化計画による推計値
- ・小学校ごとの児童数は、2020年度の小学校ごとの児童数の実績値から、小学校ごとの割合により算出

・1学級あたりの生徒数

2021年3月に改正義務教育標準法により、公立小学校の1学級あたりの上限人数が従来の40人から35人に引き下げられることが決まり、2021年6月には政府の経済財政諮問会議で「経済財政運営と改革の基本方針2021」が閣議決定され中学校への35人学級導入の検討などが盛り込まれることとなった。豊山町においても中学校1年生から35人学級の導入を進めている。

○働きやすい執務環境

- ・生徒や施設の管理、教職員の業務効率向上を図る上で、職員室をはじめ、保健室や印刷室など管理諸室を集約して整備することが望まれる。また、各々の執務空間もゆとりをもたせ、将来的な教職員の増加にも対応できる整備が望まれる。
- ・会議室や準備室、学年室(教職員用)の充実も求められる。多様化する教育環境に柔軟に対応するため、教職員が多目的に利用可能な共有スペース、リフレッシュや円滑な情報交換等ができる専用のスペースの整備も求められる。
- ・職員室は多くの関係者や生徒が訪れる場所であることから、入口に受付や相談スペースを設置するなど、訪問しやすい環境とすることも望まれる。
- ・屋外空間の改善として、教職員用の駐車場を十分な台数確保することや転回スペースの確保なども求められる。

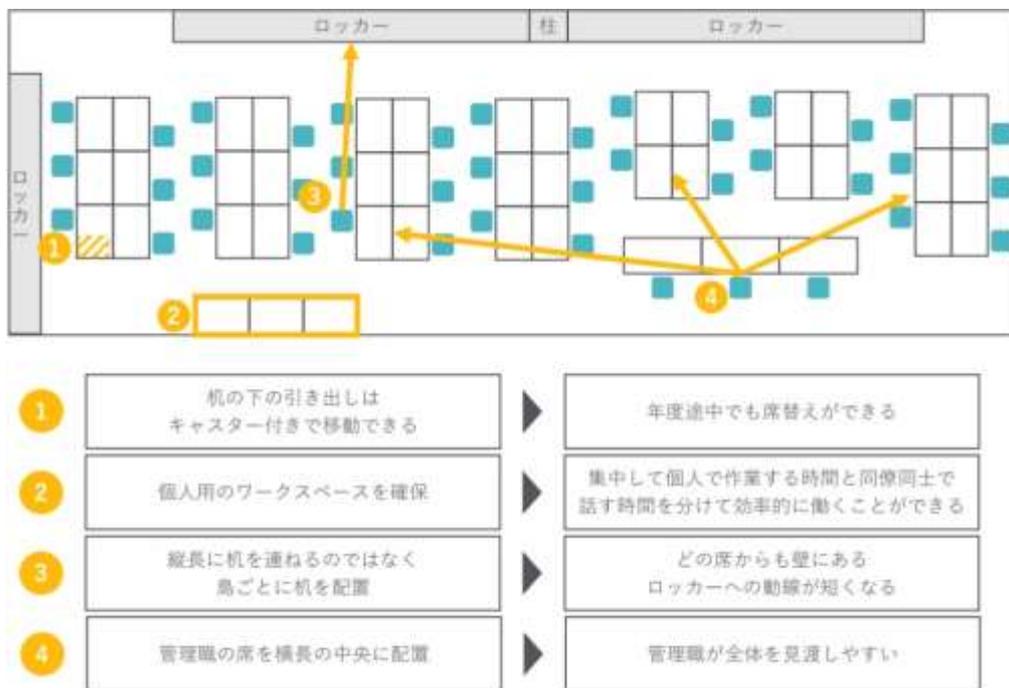


図 職員室事例

出典：「文部科学省 全国の学校における働き方改革事例集」令和3年3月



図 機能性の高い職員執務空間のイメージ

出典：文部科学省「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」最終報告 令和4年3月

a) 計画においての基本項目

- ・1 学年 180 人前後を想定しつつ、各学年 6 クラス編成が可能な配置とする。
- ・生徒がゆったりと落ち着いて学べるよう、各教室は現状(約 63 m²)以上の面積を確保する。
- ・同一学年は同一階に配置できるように余裕教室も考慮した計画とする。
- ・1 クラスの生徒数は国の動向を踏まえ、35 人を基準に計画する。
- ・現行の普通教室と特別教室を基本とした計画とする。
- ・普通教室の机サイズはタブレット、教科書、ノートが広げられる大きさを基準とする。
- ・特別教室及び準備室を充実させ、様々な教育ができるよう整備する。
- ・教室内のロッカーは使い勝手が良いようにできる限り大きく整備する。
- ・タブレットの有効利用ができるようモニターなどを含めた総合的な ICT 教室環境を計画する。
- ・読書活動を一層推進し、授業における図書室活用の拡大に向け、図書室機能を向上させる
- ・廊下、階段等は幅を広くするなどにより、生徒の学習の場としての機能を確保する。
- ・現状以上の機能を基本としたグラウンドを計画する。
- ・障がいの種別に柔軟に対応できる教室を計画する。
- ・余裕教室は、今後の教育環境の変化を見込み多目的利用や少人数学習にも対応できるよう整備する。
- ・教職員が生徒の教育に集中できるよう、校務センター化や多目的に利用可能な共有スペースなど働く場所として機能的な職員室を整備する。また、将来の職員増加にも対応できるよう整備する。
- ・休憩室やシャワー、リフレッシュスペースなど、教職員の労働環境の質的向上を図る。
- ・教職員用駐車場の十分な台数確保、ゆとりある駐車スペースを確保する。

b) 更なる検討項目(基本構想・基本計画段階)

- ・情報教育の推進と施設整備の在り方について整備計画を検討する。
- ・食育については給食センターと連携して情報発信を図ることを検討する。
- ・校訓の「創造・責任・健康」が新たな豊山中学校でも実現できる施設を検討する。
- ・体育館、武道場、プールは財政負担や地域連携と合わせて検討する。
- ・廊下側の開放などフレキシブルに利用できる教室を検討する。
- ・職員室の入口に、受付や相談スペースなどの設置を検討する。
- ・生徒の学習意欲向上のため、自由に使える自習室の整備を検討する。

c) 更なる検討項目(基本設計段階)

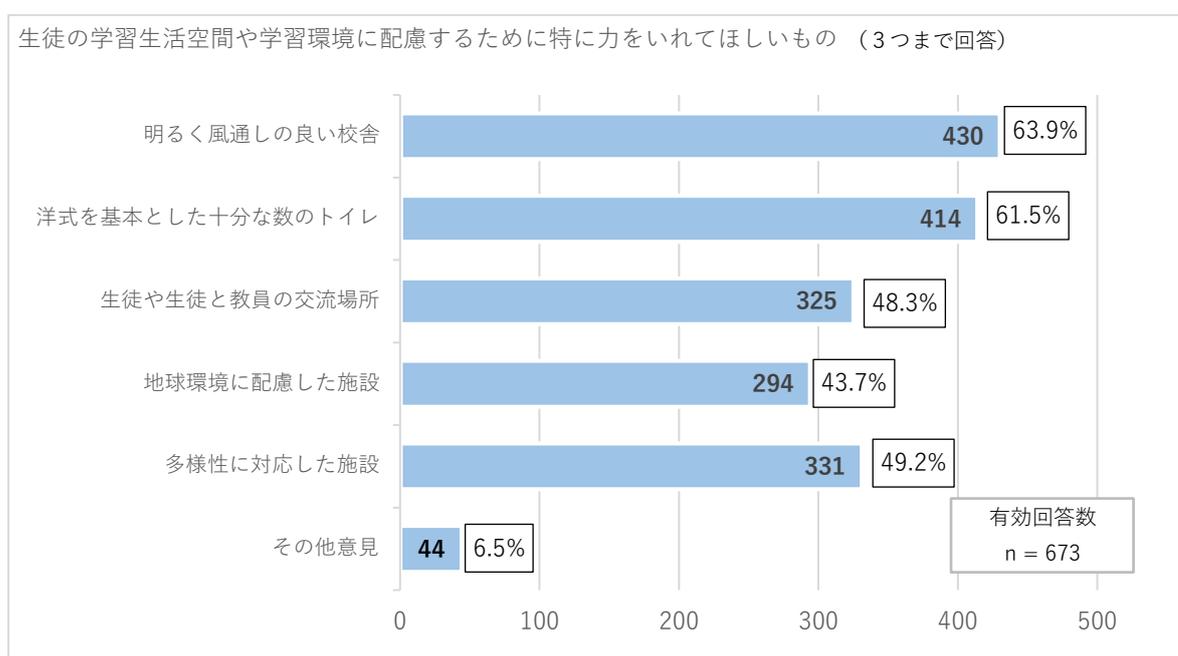
- ・プライバシーに配慮した相談室の設置を検討する。

(2) 快適な学習生活空間・環境への配慮

生徒にとって日々の学習・生活の場所となる学校施設は、生徒の学習意欲を向上させるためにも、快適な環境づくりが必要である。また、トイレなどの汚れたイメージのある空間は明るく清潔に保ち、学習面だけではなく、生徒の精神面でも安心して利用できることが重要である。

環境面では、地球環境に配慮しつつ生徒への環境教育教材としても利用できる学校施設づくりを目指すべきである。

町民アンケートでは、明るく風通しの良い校舎、洋式を基本とした十分な数のトイレの要望が多く、生徒が日常的に利用する部分の環境向上が望まれている。



○快適な学習生活空間

- ・普通教室、特別教室など主要な教室は現状と同様に空調設備を導入し、一年を通して快適な学習空間を維持する。空調を利用しない期間は窓を開放し、自然換気や自然通風が行えるよう計画を進め、学習環境で特に重要な採光は、普通教室を南向きとして計画する必要がある。
- ・トイレでは、生徒数に対して十分な数の便器数の確保はもとより、明るく清潔なトイレへの要望がある。また、教職員からは設置場所について様々な観点から配慮するよう要望がある。
- ・学習施設の機能向上の一方で、生徒間や、生徒と教職員の交流の場所も望まれる。特に生徒間の交流場所は良好な人間関係の構築が図られることから、近年建設されている中学校施設では標準的に設置されていることが多くなっている。生徒と教職員の交流面では、授業内容や学校生活などが気軽に相談できる空間として設置が望まれる。

○環境への配慮

- ・日本では、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることが目標として掲げられている。高い目標の達成には建物の性能に配慮することが必要となる。
- ・自然エネルギーの有効活用や省エネ対策など文部科学省が推進しているエコスクール事業の内容は一般化されてきており、生徒に対しての環境教育の面でも有効に活用されている。新たな豊山中学校では、一般的な環境配慮項目の採用や木質化、木造化なども併せて検討する必要がある。

○だれもが使いやすい学校

- ・国の目標として、令和7年度までに公立中学校施設での車いす使用者トイレ、スロープ等の段差解消、エレベーターの設置が掲げられており、学校を利用する全ての人に対して、やさしい学校施設となるよう、バリアフリー化やユニバーサルデザイン化への対応が求められることから、標準的な内容の採用に加え、LGBTQ対応トイレの設置や複数言語のサインなど、更なる機能向上を図る必要がある。



図 太陽光発電の環境教育への活用、地域材を利用した内装のイメージ

出典：文部科学省「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」最終報告 令和4年3月

LGBTQ…レズビアン（同性を好きになる女性）、ゲイ（同性を好きになる男性）、バイセクシュアル（両性を好きになる人）、トランスジェンダー（出生時に割り当てられた性と性自認が一致しない人）、クエスチョニング（自身の性自認・性指向が決まっていない）／クィア（既存の性のカテゴリに当てはまらない）の頭文字で、性的指向（好きになる相手の性別）やジェンダー自認（自認する性別）に関する人たちの総称。

a) 計画においての基本項目

- ・普通教室、特別教室には空調設備を設置する。
- ・校舎は自然採光、自然換気により明るく過ごし易い環境にする。
- ・普通教室は南向きを基本とし、教室内で十分な自然光が取り入れられる計画とする。
- ・トイレ器具は洋式を基本とし、生徒数に対して十分な数の器具を設置する。
- ・トイレ内の床は乾式とし、清掃しやすく衛生的な施設を計画する。
- ・トイレは、広く明るい空間を計画する。
- ・多様性に配慮したトイレの設置を行う。
- ・バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を徹底する。
- ・個別の配慮を必要とする生徒が利用できる部屋を整備する。

b) 更なる検討項目(基本構想・基本計画段階)

- ・ロビーにベンチを設置するなど、生徒間や生徒と教職員の交流場所の整備を検討する。
- ・エコスクールやZEB化など環境に配慮した施設整備を行い、環境教育の教材としても利用できる学校に向けた検討を行う。
- ・校舎の構造についてRC造、S造の他、木造も検討する。
- ・敷地内の緑化、建物内の木材利用など自然環境に配慮した計画を検討する。
- ・多目的ホールの複数設置など、様々な学習に対応できる環境整備を検討する。

c) 更なる検討項目(基本設計段階)

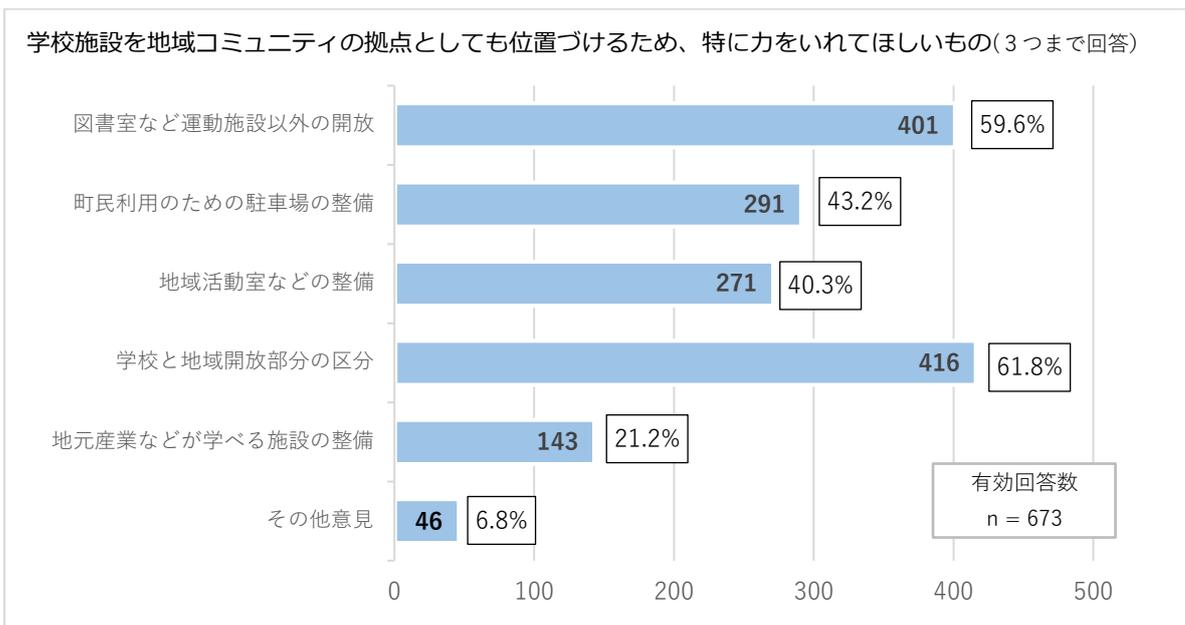
- ・和式トイレの設置を検討する。
- ・学校のデザイン案に生徒の意見も取り入れるための生徒向けのワークショップ等の開催を検討する。
- ・空港に近いことから、教室等の防音対策を検討する。

ZEB…Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略称。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー(建物で使用する機械設備等の電気消費量)の収支をゼロにすることを目指した建物のこと。

(3) 地域コミュニティの拠点形成

学校施設は、生徒の学びの場だけではなく、地域のコミュニティの拠点としても位置づけられ、日頃から学校開放などで多くの町民に利用されている。新しい中学校でも、これまでと同様に学校を開放し、町民が様々な活動で利用できるよう整備することが重要である。

町民アンケートでは学校と地域開放部分の区分を明確にすることが特に望まれており、セキュリティ面での対策が必要だと考えられる。また、図書室などの運動施設以外の開放も求められており、町内の他施設との連携も含めて今後の検討が必要である。



○中学校と地域の連携・協働

- ・地域開放施設は利用者へのヒアリングや構想会議から、現在豊山中学校で学校開放を行っている運動施設の他にも、町民が利用できる地域活動室やボランティアルームなどの設置が求められる。コミュニティスクール化を実施していくためには、町民が学校へ積極的に参画できる環境が重要なことから、町民利用施設は今後継続して検討する必要がある。一方でセキュリティの観点から、町民が自由に使用できる空間の区分けは明確に行うことが必要となる。出入口も生徒や教職員との交錯を避けるため専用出入口を設けたほうが良いとの要望もある。
- ・学校への参加促進、利用者への配慮として、来訪者が利用しやすい駐車場の整備が求められる。
- ・一般的な地域開放では教職員に対する負担も考慮し、地域が協力してくれる学校づくりとして、地域と学校の話合いの場を設けるなど、学校施設の地域開放には学校運営のソフト面の考え方も重要である。
- ・地域の特性を活かした教育として、地元の産業や歴史について学べる機会の創出が期待されており、そのような観点からも地域開放施設の整備を検討する必要がある。

○地域開放、地域施設との複合

- ・生涯学習の観点から、運動施設としてのグラウンドや体育館・武道場などを町民が利用できる施設として開放することが求められる。また、図書室などの開放も期待される。
- ・町内には社会教育センター等の生涯学習施設があり、体育館や図書室などが整備されている。他の公共施設等との複合化の面から、新たな豊山中学校への体育館や図書室などのあり方を検討する必要がある。



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が開ける共創空間のイメージ



他の公共施設との複合化・共用化を図り、多様な「知」を集積する共創空間のイメージ

図 地域とともに創造する共創空間のイメージ
出典：文部科学省「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」最終報告 令和4年3月

a) 計画においての基本項目

- ・地域開放部分と学校利用部分はセキュリティ区分を明確に計画する。
- ・地域利用者専用の出入口を設け、生徒・教職員との動線交差に配慮する。
- ・十分な数の駐車場を整備し、地域開放や学校行事等で町民が訪問した際に利用できるよう計画する。
- ・グラウンド、体育館等は地域開放ができるよう町民の利用も考慮した配置計画とする。

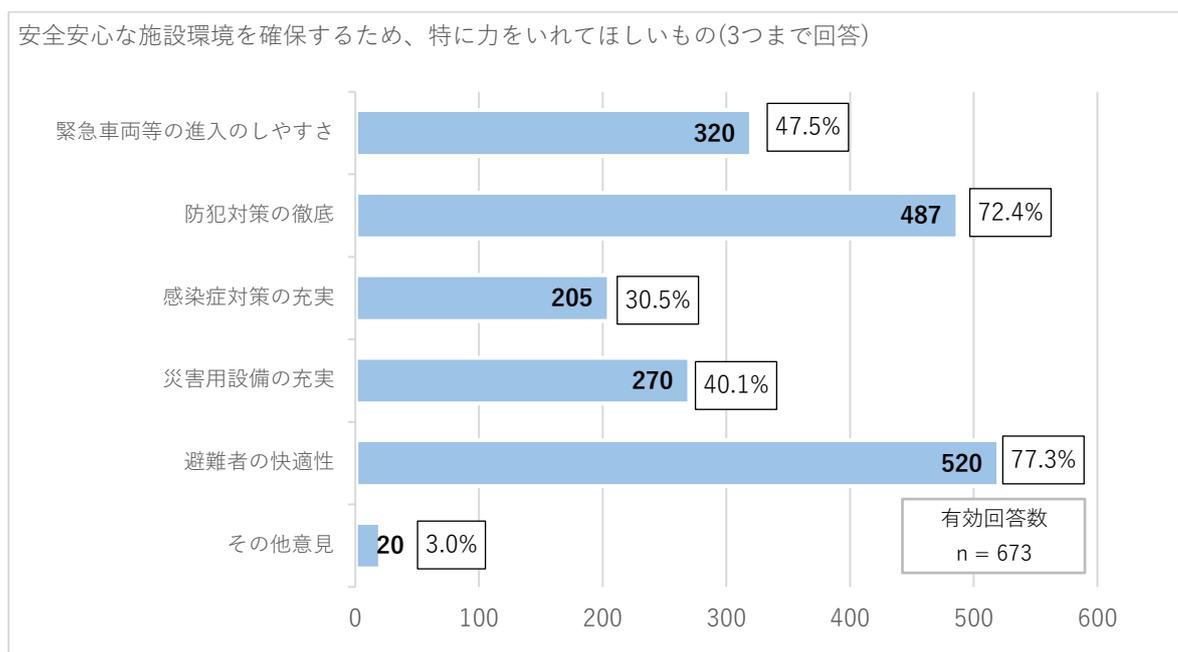
b) 更なる検討項目(基本構想・基本計画段階)

- ・町民が自由に利用できる地域活動室を設置するか検討する。
- ・地域のボランティアが利用するボランティアルームの設置を検討する。
- ・学校内に町民が利用できるコミュニティ広場など、学校と地域の交流空間設置を検討する。
- ・町の生涯学習施設機能の一部としてコミュニティスクール化を今後検討し、セキュリティ面では地域の協力が得られるか検討する。
- ・地元の産業や歴史について学べる機会を創出するための施設整備を検討する。
- ・記念碑や記念樹木のあり方について検討する。
- ・地域開放にて利用する各団体の器具保管スペースを確保できるか検討する。
- ・体育館や図書室など他の公共施設等との複合化による効果について今後継続検討する。

(4) 安全安心な施設環境の確保

大規模な災害が発生した際に、学校施設が安全に継続して利用ができるように、また、町の指定緊急避難所として万全の災害対策が取られた計画が必要となる。新たな豊山中学校では、災害時だけではなく、日々の生活の中でも、生徒が安心して過ごすことができる学校となるよう計画を立てることが重要である。

町民アンケート結果では、災害発生時の避難者が快適にすごせる環境が望まれている。また、日常の安全確保の面から、徹底した防犯対策も求められており、今後の検討が必要である。



○災害に対応した学校

- ・災害の中でも特に人命に影響する地震への対応として、耐震構造による学校施設の計画が望まれる。学校施設は、避難所として利用されることから、中学校の改築に当たっては、文部科学省が定める耐震基準を遵守した上で更なる安全対策を講じる必要がある。
- ・災害発生時の避難所の多くは体育館が利用されているが、更衣室やシャワー、トイレなどの設置の要望がある。また、災害時であっても空調設備の利用や障がい者が不便なく利用できる施設も求められる。
- ・災害発生後に通常授業を再開するためには、避難所として利用される部分と学校として利用する部分の区域を明確にする検討が必要である。



図 学校施設での災害対策事例

出典：「文部科学省 避難所となる学校施設の防災機能に関する事例集」令和2年3月

○日常の安全性確保

- ・学校内への不審者侵入防止対策として、校門を職員室から視認しやすい位置に設置、学校周囲のフェンスを乗り越えられない高さとするなど、教職員や保護者から特に強い要望がある。一方、地域とのつながりを重視するには開放性も必要となるため、運営面での対応方法を含め検討が必要となる。
- ・感染症対策として、十分な手洗い場の設置が求められる。
- ・敷地内への緊急車両進入の場合を想定し、消防車等が通れる門の広さや周辺道路からの進入のしやすさ等が求められる。

a) 計画においての基本項目

- ・校舎は耐震構造を基本とし、重要度係数は文部科学省の構造設計指針に則り 1.25 以上とする。
- ・避難所として必要な機能、施設について、防災担当部局と連携しながら計画する。
- ・窓をはじめとする開口部からの侵入防止、地域開放に伴う利用者の増加に対して適切な安全性が確保できるよう計画する。
- ・生徒、教職員及び学校施設利用者のプライバシーに最大限配慮しつつ、不審者侵入の防止を図るため、防犯カメラを適所に設置する。
- ・感染症対策として有効である手洗い場を適所に設置する。
- ・保健室と職員室を近接させるなど、生徒の安全管理に目が届きやすい環境を整備する。
- ・緊急車両が通れる門の広さ、周辺道路からの進入のしやすさに配慮する。

b) 更なる検討項目(基本構想・基本計画段階)

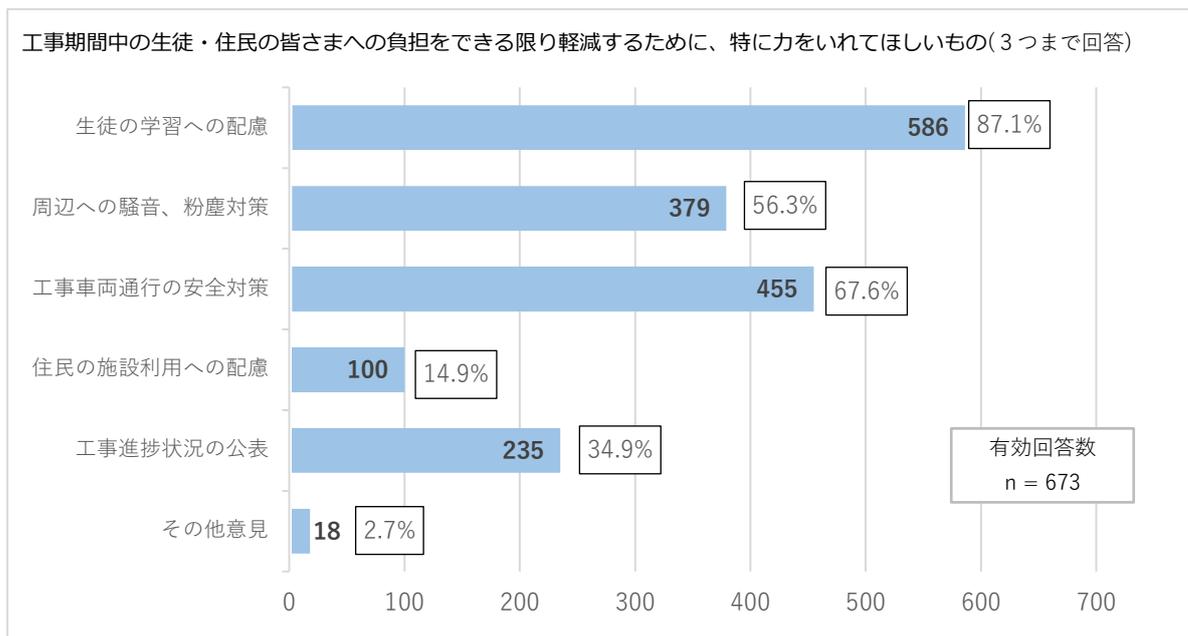
- ・避難所となる体育館に災害時も利用できる空調設備(大人数利用も考慮)の設置を検討する。
- ・災害発生時の拠点として、避難者が安全・安心に利用できるよう災害備蓄倉庫や設備の設置を検討する。
- ・災害発生後でも早期に授業開始が可能となるよう教室と避難場所の適切な区分けを検討する。

重要度係数…建物の重要度に応じて必要保有水平耐力を割り増す係数

(5) 財政負担を軽減する効率的な施設整備・運営

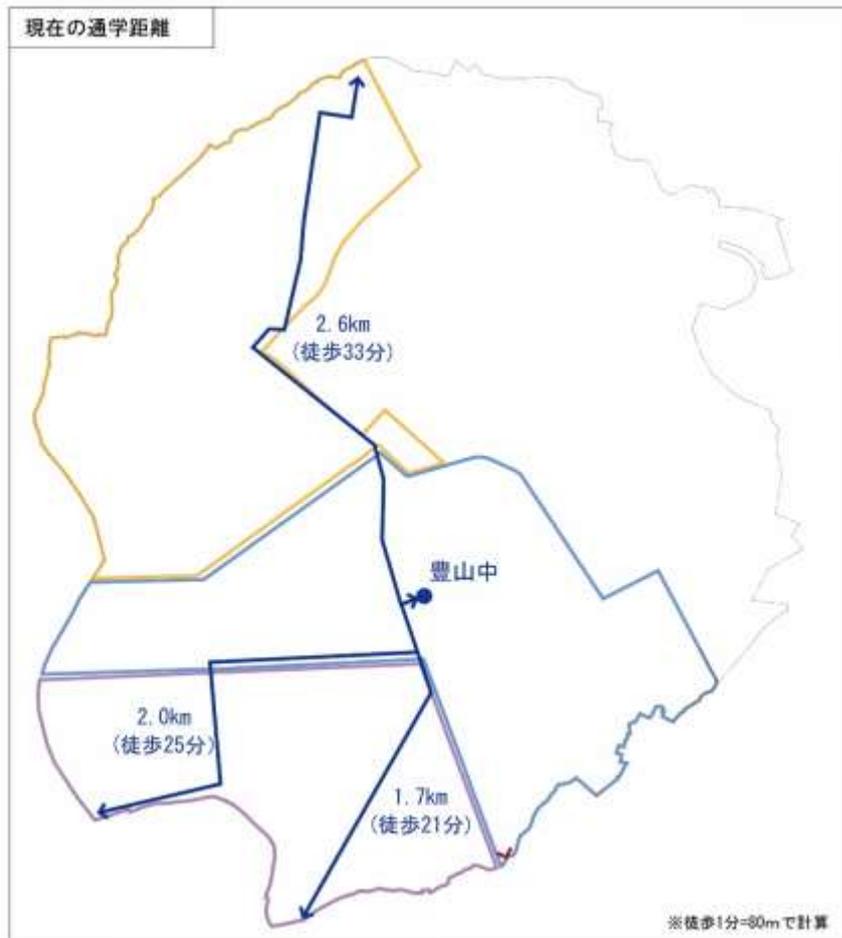
新たな豊山中学校建設は、建設費用、将来的な維持管理費用ともに町の財政への負担が大きな事業となる。適切な事業手法の選定や効率的な施設整備・運営がなされないと、将来的には町の財政状況に大きな影響を与える可能性がある。そのため、事業手法及び施設整備・運営を最適化した上で事業を進めていくことが重要である。

町民アンケートでは、工事期間中であっても生徒の学習への配慮を特に力を入れてほしいとの結果であった。工事中の車両通行の安全対策や、周辺への騒音・粉塵対策と合わせ、生徒や周辺住民への影響を最小限に抑える計画が必要となる。



○計画的な整備、敷地利用の効率化

- ・ゆとりのある学校の整備は教育環境、学習環境として理想的ではあるものの、一方で学校全体の床面積が増えると建設時の工事費も増加する。生徒・教職員へのヒアリングにより、要望として挙げられた教室の確保は前提としつつ、共用化が図られる教室の配置など効率的に学校が機能できるよう計画する必要がある。
- ・改築期間中の学習環境、学校生活について、生徒や保護者から心配の声があることから、生徒の負担を極力減らす配慮が必要である。
- ・改築工事を行っている際の安全性についても教職員、保護者から要望がある。改築工事に当たっては、町民及び生徒に対して工事中に大型車両が通る際の安全確保が十分になされるか、校庭の利用ができるか等の検証が必要である。
- ・新たな豊山中学校の建設場所については、工事期間中の学習環境、学校生活への影響のほか、町の財政に与える影響が大きな課題となる。現地建替えの場合は仮設校舎の費用、新規の土地取得では買収費用など多額の費用を要することとなる。今後、財政負担の視点からも建設場所について具体的な検討を行う必要がある。



- ・通学距離の上限
 小学校で概ね 4 km、中学校では概ね 6km
 (文部科学省：平成 27 年公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引きより)
 現状の豊山中学校はどの地区からでも通学距離の上限内となる位置に設置されている。

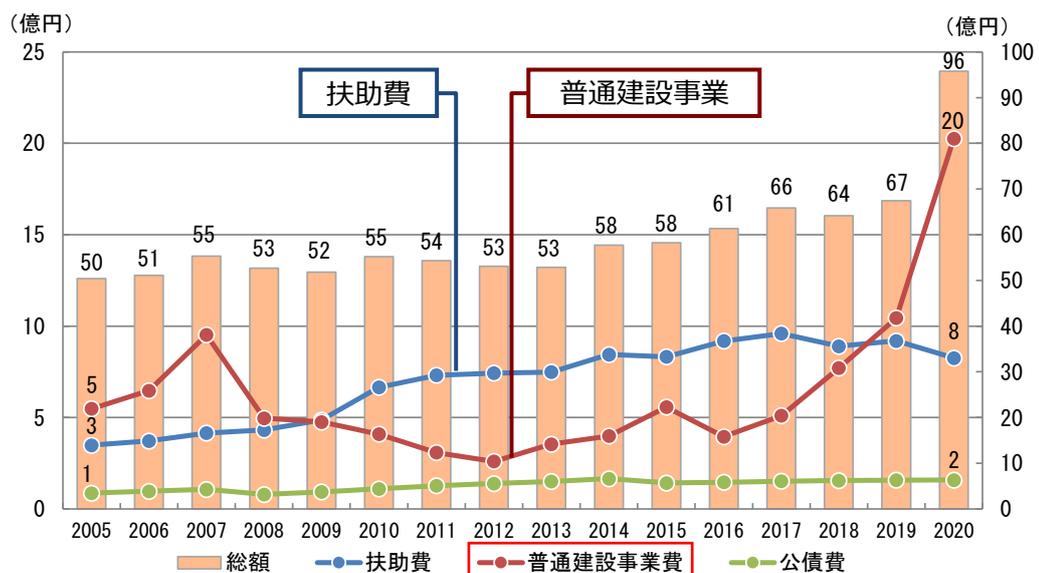


図 本町の歳出(性質別)の推移と内訳

出典：「豊山町公共施設等総合管理計画」令和 4 年 3 月

○維持管理に配慮した施設計画

- ・豊山町学校施設改築・長寿命化計画では学校施設の想定耐用年数を80年と定めている。建築物は定期的なメンテナンスが必要のため、適切な時期に適切な改修を行うことができるよう、中長期の修繕計画を立案し、将来の修繕費用を把握するとともに、町の財政への影響が最小限となるよう計画する必要がある。
- ・学校施設の維持管理にかかる費用は、建設費用を1とした場合、維持管理にかかる費用はおおよそ1.8となる。そのため、新たな豊山中学校建設では、維持管理費全体の縮減が図れるよう、メンテナンス性に優れた建材の使用や、効率的な配置となる平面計画などを行う必要がある。
- ・ICT教育に対応する機器は、設置型を採用すると将来の機器更新の際に利用ができなくなる可能性があることから、普通教室や職員室などはゆとりをもたせ、将来の更新に対応できる計画が求められる。

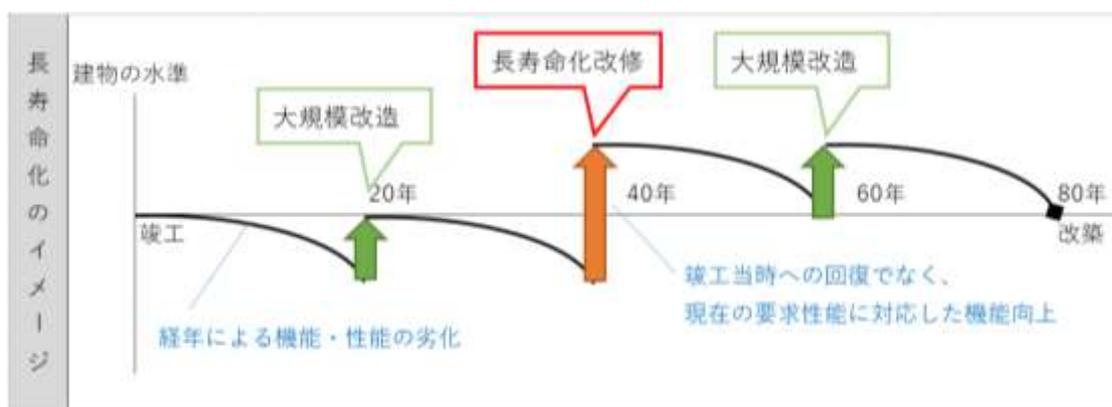


図 建物の更新時期のイメージ

出典：「豊山町学校施設改築・長寿命化計画」平成31年3月

a) 計画においての基本項目

- ・ 余裕教室を考慮した計画とし、効率的で将来の改修も考慮した学校施設計画を行う。
- ・ 中長期修繕計画を作成し、改築時より将来発生する維持管理費用を想定する。
- ・ 維持管理費削減が図れるメンテナンス性に優れた建材を利用する。
- ・ 機器更新の際に大規模な改修が発生しないよう、ゆとりをもたせた教室を計画する。
- ・ どの生徒も通学の負担が少ない場所、安全な通学路が確保できる場所に学校を計画する。
- ・ 工事期間中であっても、行事の中止や教室の明るさ確保など、生徒の学習環境に与える影響を最小限に抑える計画を行う。

b) 更なる検討項目(基本構想・基本計画段階)

- ・ 効率的な平面計画・配置計画を行い、適正な規模、工事費となるよう検討する。
- ・ 新たな豊山中学校建設地については、工事期間中の学習環境や財政負担の視点から検討する。
- ・ 町の財政状況を踏まえた最適な事業手法を選定する。
- ・ 体育館、武道場、プールのあり方については、町の財政負担にも考慮した計画を検討する。
- ・ 周辺環境への影響を最小限に抑えられるよう適正な学校の高さを検討する。

c) 更なる検討項目(基本設計段階)

- ・ 改築工事中の騒音、粉塵、車両通行など町民が安全・安心に生活できる環境への配慮を検討する。

3 豊山中学校改築のコンセプト（案）

豊山町教育大綱における基本理念を支える柱に位置づけられている「豊かな心と生きる力に満ちた人」を育てるためには、それぞれの子どもがもつ可能性を伸ばすことが大切です。そのためには、人間的な成長や学術的な成長を支援していく必要があります。豊山中学校改築計画では、次に示すように子どもたちの「人としての可能性」や「学びの可能性」を伸ばしていくことを重視します。

■人としての可能性を伸ばす

豊山中学校改築では、生徒、教職員、地域の方々との出会いが広がり、生徒同士が関わり合う「子どものつながり」、生徒たちと地域の人たちが関わり合う「地域とのつながり」、中学校教職員が関わり合う「教職員のつながり」、これら3つのつながりを深めることに配慮した学校づくりを進めます。



■学びの可能性を伸ばす

豊山中学校の新たな学校づくりにおいては、一人一人に対応した発展的な学習、探究的な学習の充実を図り、伸びる力、伸ばすべき力を育める学校づくりに配慮します。

また、「目指すべき中学校のあり方（令和4年8月/豊山町中学校施設整備基本構想会議）をふまえ、5つの目指すべき姿の実現に向けて、豊山中学校改築を計画します。

①教育環境の質的向上

- 学力の向上、豊かな人間性の構築、効率的で効果的な教育の実現

②快適な学習生活空間・環境への配慮

- 学習意欲の向上、誰もが安心して利用できる施設、環境教育教材として利用できる施設

③地域コミュニティの拠点形成

- 地域コミュニティの拠点として町民が様々な活動で利用できる施設

④安全・安心な施設環境の確保

- 日常生活・災害発生時ともに安全に継続して利用できる施設

⑤財政負担を軽減する効率的な施設・運営

- 事業手法及び施設整備・運営の最適化

豊山町教育大綱の基本理念「豊かな心と生きる力に満ちた人を育む」では、学校と家庭、地域の一層の連携のもとで学校教育の充実を図ることとしており、つながり合い、ともに学び合い、成長する学校とすることが、新しい時代の豊山中学校改築において重視すべきことと考えます。豊山中学校改築にあたっては、これらの考え方をふまえ、改築コンセプトを以下のとおり設定します。

■改築コンセプト（案1）

**つながり、学び合い、共に成長できる
多様な学習活動が展開できる豊山中学校**

■改築コンセプト（案2）

**つながり、学び合い、共に成長できる
地域に開かれた豊山中学校**